不登校を背景要因に持つ生徒に対する構成的グループエンカウンターの効果
～適応指導教室の事例を通して～
〇曾寄和彦
（秋田県立本庄養護学校）
〇本間恵美子
（秋田大学教育文化学部）
谷口清
（東京慈恵会医科大学医学部）

【目的】
本研究では、不登校を背景要因に持ち、適応指導教室に通う生徒に対し、構成的グループエンカウンター（以下、SGE）を実施し、生徒の自尊感情や社会的スキルの向上、ストレス反応の軽減に及ぼす影響について検討した。

【方法】
対象：B適応指導教室に通級する中学生6名（2年男子2名、女子1名、3年男子2名、女子1名）
SGE実施期間と回数：1999.10月〜2000.2月に12回
測定具：①社会的スキル：戸塚崎他（1997）の「中学生用社会的スキル尺度」25項目に、独自に作成した12項目を加えた37項目。②自尊感情：Rosenberg（1965）の「自尊感情尺度」10項目。③ストレス反応：三浦他（1995）の「中学生用ストレス反応尺度」24項目。
手続き：上記①②③の測定具を用いた質問紙をSGE事前（7月）と事後（2月）の2回、生徒6名に実施した。また、上記①②の測定具を用いた質問紙を同様な手続きで生徒6名の行動について教師3名が評定した。なお、生徒に対してはSGE実施後、毎回、振り返り用紙への記述を求めた。教師に対しては12回のSGE実施後、社会的スキル、自尊感情、ストレス反応に関するアンケートを実施した。

【結果】
○生徒の自己評定：社会的スキル得点はSGE事前<br>SCE事後で有意差が認められた。（Wilcoxon符号付き順位検定；p=.046）ストレス反応得点はSGE事前＞SGE事後で有意差が認められなかった。有意差は認められなかった。（表1）

<table>
<thead>
<tr>
<th>变数（満点）</th>
<th>生徒の自己評定得点</th>
<th>教師による生徒評定得点</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>SGE事前（SD）</td>
<td>SGE事後（SD）</td>
</tr>
<tr>
<td>社会スキル総合（136）</td>
<td>99.33（9.03）</td>
<td>106.67（12.31）</td>
</tr>
<tr>
<td>自尊感情（40）</td>
<td>22.67（4.18）</td>
<td>22.83（6.05）</td>
</tr>
<tr>
<td>ストレス反応総合（88）</td>
<td>52.33（9.35）</td>
<td>43.83（21.62）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

pは有意確率  
↑10>p>.05  *.05>p>.01  **.01>p

（注1）社会的スキル評定については、外から評価するのは難しいと考え、教師による生徒評定は行っていない。